

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 撫子会
施設名	なでしこ保育園
報告者（役職）	大谷 美由紀（主幹保育教諭）
住所・連絡先	〒020-0634 岩手県滝沢市室小路 251-2
	☎ 019-699-3080
	E-mail nadesiko@flute.ocn.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

響け！夏の空にさんさ太鼓 ～地域の文化を継承しよう～

### ○主な助成備品

- ・さんさ太鼓(縮太鼓一尺一寸)
- ・太鼓用背負紐、金具
- ・子供用袖なし半天(園マーク入り)

## 1. 保育計画策定の目的

当園は、盛岡市に昭和 38 年開園の「なでしこ幼稚園(現なでしここども園)」の姉妹園として、滝沢村(現滝沢市)に平成 19 年に認可保育所「なでしこ保育園」として開園しました。園行事として、夏に行う夕涼み会では、平成 23 年から地元のお祭りでよく行われるさんさ踊りを取り入れました。その際、当時の園長(現理事長)が子どもたちのために、一つひとつ心を込めて手作りのさんさ太鼓を作り、子どもたちは大変喜び、年長組が園の代表として夕涼み会でさんさ太鼓を叩き、それに合わせて全園児で踊るようになりました。手作りさんさ太鼓は伝統となり、毎年、年長組が使い続けました。

大切に使っていましたが、最近劣化が進んでおり、修理をしても使えない物も出てきました。また、太鼓も上手になり、手作りの良さ・物を大切にする気持ちを育むことはもちろんですが、本物のさんさ太鼓に触れることで、さらに地域の伝統文化を身近に親しんでほしいという想いも年々強くなり、今回、保育計画を策定しました。

## 2. 具体的な実施内容

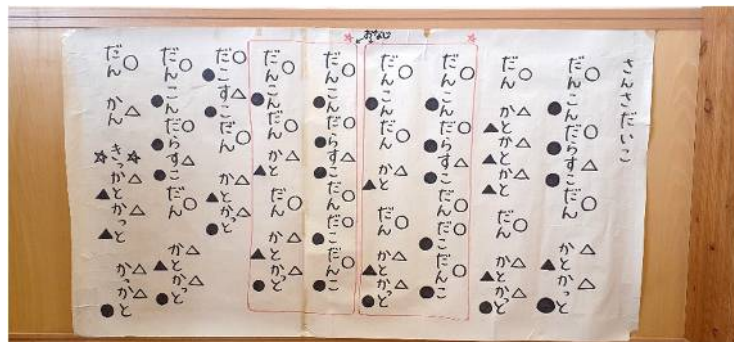
◎5月下旬、年長児クラスでさんさ太鼓のテープを流すなどして、リズムに親しみ始め、今度は自分たちの番だ！やってみたい！という意欲が高まった。

◎太鼓屋さんから、さんさ太鼓が届いた。さっそくその場で叩き、本物の音色に触れ喜ぶ姿が見られた。



◎しかし、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、7月に予定していた「夕涼み会」を、「なでしこまつり」に変更して日中の保育時間内に行うことにした。保護者不参加・飲食無し・園児のみで、以上児・未満児を分けて行うことにした。さんさ太鼓は、例年通り行い、未満児はテラスからの観覧とした。

◎6月上旬からクラスにさんさ太鼓「七夕くずし(2番)」の略譜を大きくしたものを掲示しておく。これまで耳で聞いていたリズムを声に出しながら親しむようになった。



◎6月中旬には、年長児保育室内にて、バチを手に太鼓を叩いて地域の伝統芸能に触れ始めた。この頃から年中児・年少児も部屋でさんさ踊りの練習を始める。



◎リズムを覚え、合わせて叩くことができるようになってから、太鼓の重さにも慣れるよう背負紐をつけての練習も行った。



◎7月10日、以上児のなでしこまつり開催。盛岡さんさ七夕くずしを、元気いっぱい太鼓を叩いた。5歳児が披露した後、3歳児・4歳児も輪に入り「はらはらはらせー」「さっころちよいわやっせー」など、大きな声で掛け声をかけながら踊った。未満児はテラスから楽しそうに観覧し、手を叩いて喜んでいた。例年、あちらこちらから聞こえてくるさんさの音色だが、今年度は、感染症予防対策のため、地域のお祭りは中止が相次いでいたところだったので、久しぶりに岩手の夏らしい雰囲気を感じられた。



◎9月4日、滝沢総合体育館での運動会を行った。保護者の方々にさんさ太鼓を披露できていなかったのが、この日のオープニングでさんさ太鼓を披露した。初めて保護者の前での披露に緊張しながらも、これまでの練習の成果を発揮し、広い体育館に響き渡るよう、堂々と太鼓を叩く姿に保護者の皆様からたくさんの拍手を頂き、達成感と満足感で笑顔いっぱいの子どもたちだった。



### 3. その成果と評価

本物のさんさ太鼓が届いてからは、例年以上に張り切って練習に取り組む姿が見られた。また、本物の音色とこれまでの音色を聴き比べ、叩いた感触の違いに気付き、太鼓の重さを感じ、バチを握ることで、「ぼくたち、わたしたちから新たにスタートするなでしこ保育園の伝統」という一面も感じていたようだ。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、夕涼み会として保護者や地域の方々に披露することはできなかったが、夏の園庭で、応援してくれた未満児のお友達と、一緒に踊った3歳児・4歳児のお友達と楽しいお祭りのひと時を過ごすことができた。例年とは異なるが、保育園の仲間たちだけのなでしこまつりは、今年度だけの特別な思い出に残る一日となった。ともすると、行事の縮小は残念に感じられがちだが、さんさ太鼓を寄贈して頂いたことによって、保護者や地域の方々への披露がなくても、本物を叩くんだという、これまで以上の意欲を持って取り組むことができた。

7月にはできなかったが、9月には運動会のオープニングとして、さんさ太鼓を保護者の方々に披露した。園マーク入りの半天を身につけると、なでしこまつりの達成感や満足感を

思い出し、さらに意欲を持って取り組むことができた。天井の高い大きな体育館にさんさ太鼓の音色が鳴り響き、その振動も感じられ、保護者の方々から大きな拍手を頂いた。広い会場での披露に緊張していたが、たくさんの保護者の方々の中で堂々と発表できたことは大きな自信となったようで、その後の種目にも一生懸命に取り組んでいた。保護者の方々からも感動や喜びの声を頂くことができた。新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため、いろいろなことが当初の計画通りにはいかなかったが、だからこそできた経験も多く、子どもたち一人ひとりの力になったと感じている。

#### 4. 今後の課題と展望

本物に触れることで、五感を通してたくさんのことを学ぶことができた。本来であれば、夕涼み会で地域の方々へ披露したり、地域のお祭りに参加したり、施設訪問なども計画していたが、残念ながら今年度は不可能だった。今後の感染状況にもよるが、幼児期の体験を豊かなものにするためにも、さんさ太鼓を通して地域活動にも積極的に取り組んでいきたいと考えている。これからも、園の伝統としてこの活動を続け、なでしこ保育園でさんさ太鼓を経験した子どもたちが、卒業後は地域の伝統文化を担う世代となり、岩手の夏の空にさんさの音色を響かせることを期待している。

このように本物と触れ合う経験ができたこと、伝統として今後使い続けていくことができることに感謝し、大切にして参ります。本当にありがとうございました。

以上

